

## <シート2>

### 第3節 次世代育成支援行動計画から引き継ぐ施策

| (A) 施策名          | (D) 進捗状況及び評価         | (E) 担当課   | 方向性<br>(F) | (G) 委員意見 | 方向性<br>(H)   |              |
|------------------|----------------------|---|------------|----------|--|--------------|
| 1. 一人ひとりの個を伸ばす支援 |                      |   |            |          |  |              |
| (1) 子どもの権利の尊重    |                      |   |            |          |  |              |
| 1                | 子どもの権利擁護のための啓発と広報の推進 | いじめ防止対策推進事業が始まり、市全体でいじめ防止の意識が高まっています。しかし、子どもの権利擁護については周知が足りないため、今後はいじめ問題も含め、子どもの権利に関する施策の啓発・広報活動を行っていきます。 | 子育て支援課     | 拡大       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発、広報活動の具体策はどのようなものでしょうか？</li> <li>・いじめ防止対策の捉え方をいつも、近視眼的と感じている。子どもの心の変化は毎日の観察でも容易に感じとれない。むしろいじめが生まれない環境づくりの努力の方が効果的。まず子どもと身近に関わる。両親、兄弟、教師等がゆとりを持ち子どもに接することで、子どもに安心感を与える。また、どんなことでも最後まで聴く(傾聴)ことが簡単なようで最も難しい。他に、小動物との関わりや植物を育てる経験や体験させることがいじめ防止に役立つのでは？子どもにとって最善の利益とは？子ども自身が幸せだと実感できる家庭であり社会であると考えます。例えば一人でも、集団で、苦手なことでも何かをやり遂げ「やったー」という感動をたくさん経験させるなど等、当たり前ことの積み重ねが子どもの幸せではないかと考えます。</li> <li>・なお一層の周知をお願いします。</li> <li>・関沢小では、子どもたちにいじめについて考えてもらうため、5・7・5で標語を募集しています。こういう取組を広めたらいかがですか。</li> <li>・何かが起きてから「いじめ」を考えるのではなく意識向上が必要。</li> <li>・いじめの大きさによれば、犯罪事件といっても過言ではないと思うので、警察の介入があってもよいのではないか。警察官によるいじめの講演が可能であれば、いじめは「ダメだ」とより感じると思う。</li> <li>・「いじめ」は先生の質の向上も必要。</li> <li>・いじめ、虐待の周知徹底が不可欠。どのような方法が効果的か検討を。</li> </ul> | 継続：5<br>拡大：9 |

|                       |                                   |   |        |    |  |                       |
|-----------------------|-----------------------------------|---|--------|----|--|-----------------------|
|                       | 2 子ども自身が相談できる体制の整備                | 各中学校に2名ずつ配置されたふれあい相談員と県から4名配置されたスクールカウンセラーによって、生徒が自由に訪れて相談できる環境が整っています(ふれあい相談員相談述べ件数2,501件)。また、相談員による中学校区の小学校訪問は小中連携に効果があり、進学に不安がなくなった児童もいます。また、保護者、スクールカウンセラーのアドバイスを受け、医療機関や教育相談室との連携ができました。   | 学校教育課  | 継続 | ・相談できる児童生徒はよいが、なかなか相談できない者に対するシステムを考えていく必要がある。   | 継続:11                 |
|                       |                                   | 来室・電話・土曜電話等多岐にわたって展開することで、相談件数は述べ件数1,268件となっています。特別支援教育的な相談が増えていますが、通級指導教室での指導や個別指導など、相談後の具体的な支援につながっています。スクールソーシャルワーカーは、学校と家庭をつなぐパイプ役となっているとともに、関係課(障がい福祉課、子育て支援課)との連携を推進しています。  | 教育相談室  | 継続 | ・不登校に加え、今後は特別に支援を要する児童生徒の保護者対応で専門的知識を持った人材の増員を。  | 継続:11                 |
| <b>(2)児童虐待防止対策の充実</b> |                                   |   |        |    |  |                       |
| 1                     | 富士見市子どもを守る地域協議会(要保護児童等対策地域協議会)の充実 | 平成13年に「児童虐待防止ネットワーク」を設置し、平成20年度より協議会として運営を続けています。関係機関の定期的(年4～6回程度)な協議の場を設けているほか、日常的にも関係機関と情報共有及び対応の協議が行われています。個別ケース検討会議は必要に応じて、平成27年度は28回開催しました。虐待通報(90件)や支援が必要な児童・家庭(122人・69世帯)が年々増加しており、職員体制の充実のほか、法令の改正により専門職(児童福祉司)の配置が義務になるなど体制整備に課題があります。                 | 障がい福祉課 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の一員として参加していますが、職員体制は厳しい状況と考えます。</li> <li>・なかなか困難な事業ですが、専門職員共々、体制整備をよろしくお願いします。</li> <li>・協議の場を増やす。専門職配置を早急に行い、体制整備を急いで下さい。</li> <li>・定期協議の回数の増加を希望します。</li> <li>・とても大事なことですし、課を越えて色々な人達で考える必要があると思います。</li> <li>・どのような組織やネットワークが虐待を防げる手段になり得るのか改善が必要です。</li> <li>・虐待通報があった際の基本対応(初期対応)について、広く市民に知ってもらう必要があると思います。</li> <li>・体制整備を進める。子育て支援施設の充実。</li> <li>・専門職の配置など体制整備をぜひ進めて下さい。</li> <li>・市民の呼びかけ(通報してもらう)。継続しての観察・訪問。</li> <li>・虐待は後を絶たない。報告増加は好ましいが、対応が後手に回らないよう職員の増加が必要ではないか。</li> </ul> | 継続:1<br>拡大:1<br>改善:12 |
| <b>(3)障がい児施策の充実</b>   |                                   |   |        |    |  |                       |
| 1                     | 「ノーマライゼーション」の普及の推進                | 運動会、体育祭や音楽会など障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に活動できる環境を増やしたり、特別支援学級の児童生徒が通常の学級で学ぶ校内通級などの交流及び共同学習を行いました。また、特別支援学校の児童生徒が住居地の学校で支援籍学習も行いました。特別支援学級担当、特別支援教育コーディネーター、すこやか支援員等の研修会では、埼玉大学の教授や特別支援教育の専門家を招へいして実践的な研修会を実施し、障がいのある児童生徒や特別な支援が必要な児童生徒への理解を深めるとともに、校内支援体制の充実を図りました。 | 学校教育課  | 継続 | ・今まで以上に交流を深めるとともに、特別に支援を要する児童生徒への指導力を高める必要がある。若い教員が増え実践力が心配」。今後もさらなる研修の充実を図ることが重要。   | 継続:11                 |

|   |                           |   |        |    |  |               |
|---|---------------------------|---|--------|----|--|---------------|
| 2 | 障がい児保育の推進                 | 継続して障がい児保育を実施しています。平成27年度は、看護師を配置するなど手厚い対応が必要な児童の受入れも実施しました。また、みずほ学園と連携した、交流保育も実施しています。   | 保育課    | 継続 | ・学校においては若い教員が増加し、みずほ学園の存在すら知らないと思われる。学校との連携も。                                  | 継続:10<br>拡大:1 |
| 3 | 障がい児在宅支援制度の充実と推進          | 平成24年度からの新しいサービスである、児童発達支援及び放課後等デイサービスについて、市内には児童発達支援・4か所、放課後等デイサービス・6か所、またサービス決定者では児童発達支援・63人、放課後等デイサービス・91人となっています。生活サポートでは60人の決定者、地域生活支援事業では110人となっており、障がい児を支援するサービスの充実が図られつつあります。より良いサービスが提供できるよう事業所への働きかけを進めていきます。   | 障がい福祉課 | 継続 | ・保護者が安心して働き、生活できるよう今後もさらなる充実を。   | 継続:11         |
| 4 | 障がい児等の児童発達支援事業の推進         | 各在園児童の6か月ごとの個別支援計画を作成し、保護者との面談で、家庭生活とみずほ学園での指導目標の共有化を図り、心身の発達を促しています。   | みずほ学園  | 継続 | ・子どもとともに保護者へのサポート体制を十分とる必要がある。   | 継続:11         |
| 5 | 障がい児への経済的支援の推進            | 福祉サービス利用や補装具の給付では、保護者の所得状況に応じた自己負担の軽減を実施しているほか、特別児童扶養手当や障害児福祉手当は広報やホームページでの制度の周知を行い、障がい児家庭への経済的支援を実施しています。  | 障がい福祉課 | 継続 | ・障がいがあるお子さんの保護者は経済的にも困窮することが多いので、ぜひ安心して生活できる環境を作ってほしい。                         | 継続:11         |
| 6 | 障がい児療育の内容の充実と保育所・幼稚園との連携  | みずほ学園へ保育園児や幼稚園児に来園してもらい交流をしたり、保育所や幼稚園に出向いて交流をしたりしました。また、保育所や幼稚園の併用通園を通し連携しながら療育を継続しています。  | みずほ学園  | 継続 | ・幼少のころから差別意識を持たない心を育成しておくことが大切。今後も継続して実施を。                                     | 継続:11         |
| 7 | 幼・保・小・中学校・特別支援学校の交流と連携の推進 | 市内のモデル地区として、西中学校区(関沢小・針ヶ谷小・西中)において、中1ギャップの解消や発達段階に応じた教育内容(学習指導、生徒指導等)の充実を目指し、小中連携会議や3校合同研修会、小中連絡会といった教職員の交流、「一日西中生」といった小学生の中学校体験や夏休みの学習会等における児童生徒の交流を実施し、その成果を発表しました。その他の学校においても、中学校区を中心とした合同研修会、小学校区を中心とした幼・保・小・中連絡協議会を計画的に開催しました。特に、小中(特)学校の連携については、校種を超えた教職員の指導方法や児童生徒の理解における共通理解を図るため、研修の工夫、小・中学校の教員によるチームティーチングの授業による教職員の交流をはじめ、学校行事を活かした児童生徒間の交流を推進してきました。<br>富士見特別支援学校では、校内研修会を市内の特別支援学級担当者やコーディネーター等にも公開し、特別支援教育におけるセンター的機能を発揮するとともに、小中学校と連携し、支援籍学習の推進を図りました。 | 学校教育課  | 継続 | ・関沢小・中学区では積極的に進めていて、少しずつ効果が出ているようですが、本来の小中一貫にはまだ遠い感じがします。量も大切ですが、質、内容の充実が望まれる。 | 継続:10<br>拡大:1 |

|                          |                      |  |        |    |   |               |
|--------------------------|----------------------|--|--------|----|---|---------------|
| 8                        | 子ども同士のふれあい事業の推進      | 市内小学校では、低学年児童と近隣の小学校就学前の幼児との交流を計画・実施し、円滑な接続を図ることができました。また、小学校5・6年生が、学区の中学生と陸上競技やバスケットボールなどを通して交流する機会や中学校における授業や部活動を見学、体験する機会を計画・実施する学校が増え、中学校への円滑な接続が図られました。さらに、中学校では、「はつらつ社会体験学習」で保育園や幼稚園、小学校での体験活動を通して、異年齢集団との交流を深めることができました。<br>支援籍学習の実施や通常の学級の児童生徒と特別支援学級の児童生徒の交流を通して、通常の学級の児童生徒の心のバリアフリーや障害のある児童生徒の社会的な自立への自信と力を育むことができました。 | 学校教育課  | 継続 | ・かなり交流が深まっていると聞くと、今まで以上に異年齢、異校種間の交流を深め、児童生徒間での意識向上を図っていくことが必要。心のバリアフリーを高めていくことが肝要。                                | 継続:11         |
| 9                        | 発達相談事業の推進と個別支援、療育の充実 | 平成27年度より障害児相談支援事業を開始し、家族支援を視野に入れた相談・支援体制が整い、障がい福祉サービスを利用するために必要な計画の策定を開始しました。  | みずほ学園  | 継続 | ・策定した事柄を積極的に実施してほしい。  | 継続:10<br>拡大:1 |
|                          |                      | 障がいの早期発見・早期療育のための機関連携(健康増進センター・みずほ学園)を積極的に行うことで、相談・支援体制を整えています。乳幼児健診での同席やカンファレンスへの参加、みずほ学園との連携など日常的に情報共有や支援体制の相談を行っています。   | 障がい福祉課 | 継続 | ・就学時検診等での取り組みとともに、随時学校と相談できるように、教育委員会、学校との橋渡しを実践していくことが求められる。   | 継続:11         |
| 10                       | 障がいや発達の遅れのある児童の相談の充実 | 発達の遅れや親子関係など多様な問題を抱える児童・家庭に対し、家庭児童相談員による相談状況は、310件で延べ1,215人となっています。乳幼児健診二次相談やみずほ学園巡回相談、言語聴覚士による言語相談など、各種児童相談体制を継続していきます。課題として家庭児童相談員の確保があり、子育ての専門性が必要な職種であり相談業務という難しさから担い手を探す困難さがあります。   | 障がい福祉課 | 継続 | ・大変な仕事であるが、何とか続けて行って下さい。<br>・保護者は本当に悩んでいると思います。葛藤と闘いながら子供の行く末を心配している。隠すことなく明るく前向きに生活できる支援体制を望みます。                 | 継続:11         |
| 11                       | 教育相談事業の推進            | 専任教育相談員を特別支援教育相談3名、一般教育相談3名から構成するとともに、臨床心理士や特別支援教育士、スクールソーシャルワーカーなどと連携し、迅速な課題解決に努めました(年間延べ相談件数1,268件)。より専門的な相談として、月1回、臨床心理士による心理相談(55件)、医師による言語相談(55件)を行いました。ピアサポート活動については、中学校3校、小学校7校で実施し、自己肯定感を高める活動に成果がみられました。また、「大人のためのピアサポーター養成講座」についても取り組みました。   | 教育相談室  | 継続 | ・以前より人員的には充実してきていると思います。誰もが同じような方向で対応できるように意思疎通を図っていくことが重要だと思います。また、室員の相談力を向上させる取り組みを。                            | 継続:11         |
| <b>(4)子どもの発達段階に応じた支援</b> |                      |  |        |    |   |               |
| <b>乳幼児</b>               |                      |  |        |    |   |               |
| 1                        | 児童館の充実               | ふじみ野児童館の開館により、市内3駅を中心とする鶴瀬地区・みずほ台地区・ふじみ野地区のそれぞれに児童館が整備されました。来館利用者との会話や交流等によりニーズに応えた事業を展開しており、利用者アンケートでは9割以上の方から満足の回答が得られています。  | 保育課    | 継続 | ・駐車場の問題等があると思うので、駐車場がない施設など(児童館に限らず)市のバスの料金が安くなるなど連携がとれないか。<br>・駅周辺の住民にとってはよいと思われるが、離れた地域への配慮が今後大事ではないか。今後検討の余地が。 | 継続:11         |

|            |                          |  |        |    |  |               |
|------------|--------------------------|--|--------|----|--|---------------|
|            | 2 放課後児童クラブの施設開放の実施       | 利用実績は増加しましたが、利用状況が一部のクラブに集中しているため、実施施設全体での利用拡大を目指します。また、平成28年度から新たに2つのクラブで実施しています。   | 保育課    | 継続 | ・サッカー等広場が必要なクラブを見つけるのが苦労。<br>・小1プロブレムを起こさないためにも、放課後児童クラブとの連携が大切。アンケートとるなど保護者、学校等と方向性を考えることも。         | 継続:11         |
|            | 3 みずほ学園の施設の活用の推進         | 関係機関との連携や、定期的な情報交換により、集団に属しながら支援が必要な親子や、在宅で支援を必要とする親子の相談と居場所づくりとしての機能も果たせました。  | みずほ学園  | 継続 | ・就学児童との関係から学校との連携強化を。若い教員の研修・視察等も考える必要が。   | 継続:11         |
|            | 4 青空児童館(「あそびの学校」)の推進     | 長期継続事業で定着しており、新メニューも積極的に取り入れ、参加者からも大変好評を得ています。   | 保育課    | 継続 | ・よい試みです。   | 継続:11         |
| <b>小学生</b> |                          |  |        |    |  |               |
|            | 1 一人ひとりを大切にす教育の推進        | アクティブ・ラーニング研修や英語ブラッシュアップ研修、スキルアップ研修(水泳)などの実践的な研修を充実させ、教員の指導力向上を図るとともに、基礎学力定着支援員やすこやか支援員、実技指導協力員などの配置により、児童一人ひとりの学習を支援し、生きる力の育成を図りました。また、全校にある学校応援団や学校運営支援者協議会を活用して学校・家庭・地域の声を学校に取り入れるなど、地域に開かれた学校づくりを推進しました。   | 学校教育課  | 継続 | ・新しい教科も創設されるが、若い教員の実践力・指導力が問われる。学力向上も含め、教育力の向上が急務である。実践に沿った研修等の充実を図る。                                | 継続:10<br>拡大:1 |
|            | 2 地域における子どもの交流・体験活動支援の推進 | 交流センターでは、ふじみ野交流センターにおいて日常的な交流・体験活動の場として「土曜あそび広場」を毎月定期開催しました。8月には「夏休みこども遊遊パーク」、「勝瀬の七夕まつり」を開催しました。9月には地域交流イベントとして「勝瀬de縁日」、1月に「もちつき大会」を開催しました。いずれも、地域の子どもと大人たちの交流、伝統文化に触れる貴重な機会となり、喜ばれました。鶴瀬西交流センターでは、施設利用サークル・団体の協力により「子どもひろば(夏・冬・春休み)」、「お父さん出番ですよ講座『親子でお餅つき』」を実施しました。鶴瀬西地域9町会・利用サークル・団体の実行委員会を組織し、「西交流センター縁日」を開催しました。「親子太鼓・子どもバンド」も、縁日・フェスティバルに参加し、継続的に事業を実施しました。 | 交流センター | 継続 | ・多種多様な試みを実施していると思います。父親の出番の場面を可能な限り多くとれるように働きかける工夫を。ややもすると行事をこなすだけに陥りやすいので、量とともに質、内容をも重視していくことが大切では。 | 継続:11         |
|            |                          | 公民館では、鶴瀬公民館において夏休みにフォトスタンドづくりなどの「小学生体験教室」、南畑公民館では「わくわく子ども体験室」において「楽しい陶芸教室」「手打ちうどんを親子で作ろう」を、水谷公民館では、子育てサロンにおいて「お花見交流会」、食育の取組として「おやこ料理教室」を、水谷東公民館では「七夕まつり」「七宝焼」「クリスマス会」を実施しました。いずれも公民館で活動しているサークルや地域の方々の協力を得て開催し、地域の中で育つ環境づくりを推進することができました。日ごろ学校では、体験することがない活動の機会を提供し、子どもたちの交流・体験機会の充実を図るとともに、子どもの居場所づくりや世代間交流を深める機会ともなっています。                                      | 公民館    | 継続 | ・子どもたちの計画立案をとることも。主体的に取り組ませることで楽しさ、やる気、仲間の誘いが広がると思う。   | 継続:11         |

|   |                               |  |       |    |   |               |
|---|-------------------------------|--|-------|----|---|---------------|
| 4 | きょうだいボランティア事業の推進              | <p>小学校入学前の園児と小学校1年生との交流会や中学校入学前の児童たちの体験学習や部活動見学会などの工夫を行いました。また、中学生が小学校に出向いての実技指導や保育所、幼稚園での異年齢交流など、幼児、小・中学生の双方が関わり合う事業を推進しました。</p>  | 学校教育課 | 継続 | <p>・先に述べたように、小学校に上がる時の抵抗は強い。交流を通して学校アレルギーを少しでも少なくしていくことが望まれる。学校格差を改善していくことが必要。</p>  | 継続:11         |
| 5 | 小中学校の学校評議員制度の充実               | <p>前年度の学校評価結果を踏まえ、学校運営の課題解決に向けて、各評議員から貴重な意見をいただき、改善を図りました。また、学校の様子をよりよく把握していただくために、授業や給食・清掃の様子、学校行事等を参観できる機会を設け、具体的な意見を伺えるよう、各校で工夫を行いました。<br/>市内全校に設置されている学校運営支援者協議会との兼ね合いを考えながら、より効果的、効率的な活用を進めました。</p>   | 学校教育課 | 改善 | <p>・中学校の評議員として参加していますが、学校側の創意工夫、苦労が見られます。<br/>・前進していることに、チェック機能の大切さを知りました。<br/>・学校運営の課題解決のため、より効果のある制度活用を検討願います。<br/>・とても良いと思っています。<br/>・継続でいいと思います。<br/>・PTAに比べて評議員は形だけのようには思われません。<br/>・どのように評議員を決めているかわかりませんが、町会長に参加を促しているようです。町内会で学区が入り組んでいると協力の依頼など難しい所があります。なるべく、代理でも良いので、学区内の方が町会代表として参加いただけると良いと思います。<br/>・各学校の工夫でよかった点を取り入れ、より多く意見を伺えるようにして下さい。<br/>・学校運営支援者協議会の効能はどうか、見えないところがある。先発組の学校では効果が上がっているように見受けられるが、協議会では実情をしっかりと伝えていくことが大切。表面化されないのでは協議会の趣旨が生かされない。</p> | 継続:5<br>改善:7  |
| 6 | 地域子ども教室事業の推進<br>(放課後子ども総合プラン) | <p>教室運営の現場の方々の努力や工夫により、子どもたちを地域社会全体で育むための、安全・安心な居場所(活動拠点)づくりがなされています。<br/>放課後児童クラブとの連携のあり方や運営ボランティアや後継者の確保については課題が残りますが、引き続き「富士見市地域子ども教室連絡協議会」等、教室間の情報交換の場や研修会も活用しながら推進していきます。</p>   | 生涯学習課 | 継続 | <p>・学校格差があるように見受けられる。地域性もあるだろうが子供たちのためにどうすべきか検討の余地が。学校によっては定期的に放課後児童クラブとの話し合いを持っているがぜひ実施すべき。</p>  | 継続:10<br>改善:1 |
|   |                               | <p>現在開催している地域子ども教室は、放課後児童クラブと一体型で実施しており、放課後児童支援員も企画運営に関わるなど連携を図っています。</p>  | 保育課   | 継続 | <p>・学校格差があるように見受けられる。地域性もあるだろうが子供たちのためにどうすべきか検討の余地が。学校によっては定期的に放課後児童クラブとの話し合いを持っているがぜひ実施すべき。</p>  | 継続:10<br>改善:1 |
| 7 | いじめ・不登校対策の推進                  | <p>平成27年度における専任相談員によるいじめ・不登校の相談件数は、いじめ55件、不登校300件であり、児童生徒、保護者に寄り添う相談活動を実施しました。<br/>適応指導教室『あすなる』利用率は25%(24名)であり、そのうち、学校へ通えるようになった者が29.2%、適応指導教室と学校を併用している者が45.8%であり、75%の通室生が学校との関わりが持てるようになりました。通室生指導員が、専任相談員やスクールカウンセラーと連携し、適応指導教室における集団での体験活動や個別学習に取り組み、学校復帰を後押しすることができました。</p> | 教育相談室 | 継続 | <p>・ぜひとも効果が上がるように継続して取り組みを。指導、対応について室内で統一できるように(していると思うが)。</p>  | 継続:11         |

|    |                  |   |       |    |   |                                |
|----|------------------|---|-------|----|---|--------------------------------|
| 8  | 情報教育の推進          | <p>情報教育モラルの育成に向けて、コンピュータ室のパソコンに情報モラルを学べるソフトを導入し、学校の実情に応じて活用しました。各学校の情報教育全体計画と年間指導計画に基づき、情報教育の水準維持・向上を図りました。今後、授業改善の一つとして、タブレット型のパソコンの導入も視野に入れた検討を進めていきます。</p>                   | 学校教育課 | 改善 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善に向けた取組をお願いします。</li> <li>・世の中の変化が大きく、情報の変化に適応するためには教員の事務量を減ず、などの考慮が必要かと思われる。</li> <li>・導入に賛成します。</li> <li>・よろしくお願いします。</li> <li>・時代に合わせて必要なことだと思います。</li> <li>・ITは日々進歩しています。その進歩に対応すべきです。</li> <li>・まずは教員へのPCやインターネット、セキュリティ管理などの教育が必要なのでは？校長や教頭が個別のメールアドレスも持っていない状況では、(学校として)子どもに教育を推進する以前に問題があると感じます。</li> <li>一人ひとりにタブレットも良いと思うがその予算を考えると電子黒板も良いと思う。全員が前を見て集中できるのでは。</li> <li>・授業時間の確保。</li> <li>・ネットにかかわる諸課題が山積している。いじめ問題をはじめ男女間の問題等、教員サイドもそのことに対する知識と技能、指導力をつけることが肝要である。研修等の充実を。</li> </ul> | <p>継続：1<br/>改善：13</p>          |
| 9  | 国際性を育む教育の推進      | <p>AET(英語指導助手)を配置し、全小中学校の英語・外国語活動の授業を補助しました。小学校外国語活動プロジェクトチームでは、5・6年生が通年で活用できる、CAN-DOリスト形式の「Englishチャレンジ」を作成し、活用をはじめました。今後も、小学校での英語の教科化等の流れに対応し、実践的なコミュニケーション能力の育成に努めていきます。</p> | 学校教育課 | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる取組に期待します。</li> <li>・グローバル化の時代です。外国人との接触機会があればよい。</li> <li>・引き続きコミュニケーション～育成をお願いします。</li> <li>・英語は、これからもっと学ぶ場が必要だと思うので、広めていただきたいです。</li> <li>・近年はinternationalであることが必須なので英会話の必然性を感じます。</li> <li>・なぜと感じた点ですが、英語の先生がメインで授業はできないのか？</li> <li>・低学年から楽しく自然に英語に触れられるようにする。</li> <li>・小中の接続を図ることが求められるが、教員が外国語対応できるように力量を高めることが今後の外国語教育に不可欠。研修の充実を。</li> </ul>  | <p>継続：2<br/>拡大：11<br/>改善：1</p> |
| 10 | 子どもに対する社会体験活動の推進 | <p>各学校は、地域の実情に応じて、学校応援団等、家庭・地域の方々の協力を得ながら、自然体験、職場体験、勤労・生産体験、社会体験等様々な体験活動を実施し、子どもたちの豊かな心を育成しました。中学校では、「はつらつ社会体験」を実施し、望ましい職業観、勤労観を培うとともに、自ら進路選択できる力を育むためのキャリア教育を推進しました。</p>       | 学校教育課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域、家庭が連携して児童生徒を育成するという意識を強く求められるよう各学校への働きかけがますます必要。</li> </ul>   | <p>継続：11</p>                   |

|             |                 |   |       |    |  |               |
|-------------|-----------------|---|-------|----|--|---------------|
| 11          | 住環境の学習の推進       | <p>小中学校の家庭科、理科、社会、生活科、総合的な学習の時間の中で、児童生徒に住環境について考えさせ、身の回りにある物を大切にしたり、無駄なものを買わない、使わない、使えるものを再利用するといったことを意識させ、実践につなげられるよう努めました。また、資源回収やリサイクル、節水・節電など、学校だけでなく、家庭・地域でのエコライフを意識した取組も行われました。</p> | 学校教育課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、家庭、地域の中での取り組みを充実させるためにも、環境センター等の設立、人材バンク、諸団体との連携強化。今以上に体験を通して実感させる取り組みを。</li> </ul>   | 継続:11         |
| <b>中・高生</b> |                 |   |       |    |  |               |
| 1           | 子どもたちの「生きる力」の伸長 | <p>アクティブ・ラーニング研修や英語ブラッシュアップ研修などの研修を充実させ、教員の指導力向上を図るとともに、中学校学習支援員やすこやか支援員、部活動指導員などの配置により、生徒一人ひとりの学習や部活動を支援しました。また、市独自の道徳教材を活用し、豊かな心、生きる力の育成を図りました。</p>                                     | 学校教育課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で知識理解を充実させるとともに、実践的な部分を家庭等で親子で考え実践する中で実感させたい。教員も児童生徒を指導するうえで、どうすれば生きる力につながるか研修等で学ばせたい。</li> </ul>  | 継続:11         |
| 2           | 中高生の居場所づくり      | <p>夜間開館事業以外にも、児童館に親しんできた小学生が中学生に進級した後も引き続き気軽に利用できるよう繋がりを大切にしています。また、季節行事ではボランティアとして参加協力を促すなど中高生の活動の場を提供しています。</p>   | 保育課   | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き場づくりをお願いします。</li> <li>・どの程度の利用があるのかを知りたいと思いました。</li> <li>・より積極的な事業展開を期待します。</li> <li>・これからが楽しみです。</li> <li>・中高生も地域の大事な子どもです。続けてほしいです。</li> <li>・異年齢の交流の意味でも拡がってほしいです。</li> <li>・中高生でも居られるような(入れるような)児童館とはどんなだろうと考えてみる必要があるのでは？工夫が必要。</li> <li>・利用者拡大に向けての工夫が必要。場の提供だけでなくアドバイザーとしての役割もほしい。</li> </ul> | 継続:3<br>拡大:11 |
| 3           | 青少年ボランティアの育成    | <p>季節行事や館内保育事業、夜間開館事業など、大勢のボランティアの協力を得て事業を展開しています。また、ボランティア養成講座を毎年実施し、ボランティアの拡大に努めています。</p>   | 保育課   | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに大学との連携などを通して学生との交流を。</li> </ul>   | 継続:11         |

|                        |                 |   |        |    |  |               |
|------------------------|-----------------|---|--------|----|--|---------------|
| 5                      | 国際性を育む教育の推進     | 小中学校におけるAET(英語指導助手)の英語・外国語活動の授業の補助を充実させるよう、小学校外国語活動プロジェクトチームの授業における活動のアイデアを共有するなどして、授業補助力を強化しました。   | 学校教育課  | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実、強化が見られます。</li> <li>・グローバルな時代です。活発な展開を期待します。</li> <li>・活動のアイデアに期待します。</li> <li>・もっと広めていきたい活動の一つです。</li> <li>・native speakerと会話できる英語力を期待します。</li> <li>・なぜと感じた点ですが、英語の先生がメインで授業はできないのか？</li> <li>・小中連携の拡大。</li> <li>・これからは外国語の教科化にむけ、各学校が地域、保護者の協力を求める算段を考えることが必要。学校の人材バンク作成。</li> </ul> | 継続:4<br>拡大:10 |
| <b>2. 子育て家庭への支援の充実</b> |                 |   |        |    |  |               |
| <b>(1)子育て家庭への経済的支援</b> |                 |   |        |    |  |               |
| 1                      | 就園奨励事業の推進       | 平成27年度の幼稚園就園奨励費補助は国庫補助対象者1,409人、市単独補助対象者303人で、対象幼稚園は38園でした。平成28年度は多子世帯やひとり親世帯等の負担軽減を図るため、補助単価の引き上げと多子計算の算定範囲を拡大しました。今後も国の補助要綱に沿って助成事業を推進します。      | 子育て支援課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動向、市の財政状況とを考え、今後も軽減に向け検討してほしい。</li> <li>・保育所と比べて幼稚園児への助成額が少ないと思います。市単独補助の拡大を望みます。</li> </ul>   | 継続:10<br>拡大:1 |
| 2                      | こども医療費支給事業の推進   | 平成24年10月診療分より小・中学生の現物給付(窓口払いなし)が開始されており、継続して順調に支給事業が進められています。   | 子育て支援課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続を。</li> </ul>   | 継続:11         |
| 3                      | 保育料の適正負担の推進     | 保育所等の保育料については、新制度に移行しても移行前の水準を維持する形で設定しました。また、県と共同で、多子世帯に対する利用者負担軽減事業を実施しました。保育料及び放課後児童クラブ保護者負担金とも、社会経済情勢の動向や近隣市の状況の把握に努め、3年に1度の見直しを引き続き実施していきます。 | 保育課    | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も他市町村との情勢を見ながら継続を。</li> </ul>  | 継続:11         |
| 4                      | 保護者の教育費の負担軽減の充実 | 学校予算の消耗品費の中に、保護者負担軽減分を計上し、保護者の負担を軽減しました。また、学校における需用費、特色ある学校づくり補助金、学力向上対策費補助金、扶助費等の予算確保に努めるとともに、図書備品整備を充実し、保護者の教育費の負担を軽減するよう取り組みました。               | 学校教育課  | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の独自予算を持たせ、特色ある学校づくりを活性化させたい。</li> </ul>  | 継続:11         |

|                   |                        |   |          |    |  |               |
|-------------------|------------------------|---|----------|----|--|---------------|
| 5                 | 要保護及び準要保護児童生徒への援助費等の支給 | 保護者より就学援助費支給申請のあった児童生徒のうち、準要保護認定者の学用品費、通学用品費(新入学用品費)、学校給食費、医療費、修学旅行費、校外活動費の援助を行いました(要保護者には医療費、修学旅行費)。平成27年度認定人数は、小学校892件(要保護含む)、中学校537件(要保護含む)でした。                      | 学校教育課    | 継続 | ・今後も負担軽減の方向で。  | 継続:11         |
| <b>(2)母子の健康増進</b> |                        |   |          |    |  |               |
| 1                 | 妊婦の健康づくり事業の推進          | 妊婦健康診査については、国が示す実施基準に基づき14回までの費用の一部を助成し、ほぼ全数に近い妊婦が受診しています。パパママ準備教室では、必要な情報を提供できるよう、アンケートなどを活用しながら内容を検討しています。  | 健康増進センター | 継続 | ・少子化に歯止めをかける上からも、富士見市で子どもを産み育てたいと思える環境整備を。進んでいると思います。                                      | 継続:11         |
| 2                 | 乳幼児健康診査の充実             | 乳幼児健康診査の充実を図るとともに、健診未受診に対しての電話・手紙による連絡や訪問、関係機関との連携により状況把握に努めています。その上で、乳幼児の発育発達や、養育に関する課題がある場合には必要な支援を行っていますが、ケースが増加している状況をふまえ、体制と連携の充実が課題となっています。                       | 健康増進センター | 継続 | ・相談に対応できる体制づくりを積極的に進めていけたら。<br>・特別支援を要する乳児が増加傾向にあると思います。早期発見早期療育が必要不可欠と思います。そのためにも拡大を望みます。 | 継続:10<br>拡大:1 |
| 3                 | 母子健康相談事業の推進            | 健康増進センター、鶴瀬西交流センター、ふじみ野交流センターの3ヶ所での乳児母乳相談の実施と、公民館での子育てサロン等に参加し、より身近な地域で相談を受けるとともに、健診や事業などで、気軽に電話相談をしてもらえるよう繰り返し案内しました。また、電話相談の件数が年々増加しています。                             | 健康増進センター | 継続 | ・電話対応に力を注ぐ体制づくりを。  | 継続:11         |
| 4                 | 母子健康教育事業の推進            | 個別相談を繰り返し行いながら支援を検討し、教室などにつないでいます。平成27年度は発達支援が必要な乳幼児の増加や保護者からの要望により、わんぱく教室の参加者がかなり増加しました。療育に関するニーズが高い状況が続いているため、今後も関係機関との連携、民間療育の情報収集等に努め、必要な人に支援が提供できる体制づくりが課題となっています。 | 健康増進センター | 継続 | ・該当するかどうかの見極めと状況収集を。保護に頼っている場合の対応は。  | 継続:11         |

|                  |  |          |    |  |               |
|------------------|--|----------|----|--|---------------|
| 5 食育の推進          | 各学校で、家庭科や総合的な学習の時間で食に関する授業を展開するとともに、学校の栄養教諭、栄養職員や給食センターと連携しながら、食育を推進しました。また、「給食月間」には、各学校において給食への興味関心を高める活動に取り組みました。  | 学校教育課    | 継続 | ・給食週間等において、公民館等を活用し、市民に給食への関心を持ってもらう。子供の給食にかかわる作品掲示等も入れる。現在は給食センターでの試食会だと思う。 | 継続:10<br>拡大:1 |
|                  | 保育所では、児童の発達に応じ離乳食から幼児食への段階的な切り替えを行っています。また、保護者あてのたよりを毎月発行し、食事の大切さや季節によってはの注意点を掲載するなどの啓発を行っています。  | 保育課      | 継続 | ・ぜひ継続を。  | 継続:11         |
|                  | 食生活改善推進員による放課後児童クラブでの調理指導や親子料理教室の実施及び保育付き健康づくり料理講習会の実施など、いずれの事業も継続を望む声があります。   | 健康増進センター | 継続 | ・現実的な取り組みだと思う。保護者同士での食に関する座談会等も入れられたら。                                       | 継続:11         |
| 6 予防接種事業の推進      | 各種予防接種に必要な知識、適切な時期に接種できるように広報などで普及・啓発を継続しています。<br>子宮頸がん予防ワクチンについては、平成27年度も積極的接種勧奨を控えています。定期予防接種としては、平成27年度も継続しています。<br>B型肝炎ワクチンについては、平成28年10月からの定期接種となります。また、任意予防接種であるロタワクチンなどの定期接種化については、国の動きを注視していきます。 | 健康増進センター | 継続 | ・親にとってアレルギー感覚があると思う。国の動向を見極め対応を。   | 継続:11         |
| 7 母子保健推進員育成事業の推進 | 生後2～3か月の乳児家庭全戸訪問事業をはじめ、母子保健推進員活動に必要な研修、その他、協議会活動として役員会をはじめ、支部会、わくわく子育てトークン、ファミリーコンサート等を支援しました。平成27年度は改選があり、全体の半分が新任の母子保健推進員だったため、緊密に連絡をとりました。今後も充実した活動になるよう支援していきます。                                     | 健康増進センター | 継続 | ・担当の皆さんの努力に感服します。  | 継続:11         |

| (3)思春期保健対策                  |                    |   |          |    |   |       |
|-----------------------------|--------------------|---|----------|----|---|-------|
| 1                           | 学校保健会事業の推進         | 学校薬剤師の指導のもと、アナフィラキシーショックを起こした時の対応(エピペンの使用)についての教員対象研修会を実施しました。また、学校医を指導者として招へいし、養護教員・衛生推進者の合同で、健康診断の新たな項目(四肢の状態)等についての研修会を実施しました。   | 学校教育課    | 継続 | ・若い教員の増加により、研修会等の実施でアレルギー対策を知ってもらうことが未然に防ぐことになる。      | 継続:11 |
| 2                           | 思春期保健対策の推進         | 各学校で、保健や特別活動等の時間に、飲酒や喫煙、薬物乱用防止に関する授業を実施しました。その中で、がん等についても学習しました。また、保健の時間に、発達段階に応じた性に関する指導を行いました。  | 学校教育課    | 継続 | ・これからも啓発、実践的指導を通して怖さを児童生徒に理化させることが大切。低年齢化している現状もあるので。 | 継続:11 |
|                             |                    | 小中学校の教育用として、赤ちゃん人形、妊婦体験ジャケットの貸出をしました。   | 健康増進センター | 継続 | ・使用頻度を見て物品整備を   | 継続:11 |
| (4)ひとり親家庭の自立支援 <国任意記載事項>    |                    |   |          |    |   |       |
| 1                           | ひとり親家庭への生活支援の充実    | 平成27年度は高等職業訓練促進給付金を活用し、修業の支援を継続しました。平成28年度より高等職業訓練促進給付金の支給期間や対象資格を拡充、自立支援教育訓練給付金の支給上限額の増額など、さらなる制度の充実を図っています。また、高等学校卒業程度認定試験合格支援給付金を新たに開始することにより、より幅広い支援を行うことが可能となりました。今後も制度を周知しながら、ひとり親家庭の自立支援を推進します。併せて、母子及び父子並びに寡婦福祉資金の活用や、関係各課で行っているひとり親家庭が利用できる制度の情報提供を積極的に行うことにより、生活に関する支援を行っていきます。 | 子育て支援課   | 継続 | ・実態把握はしていると思うので、十分な対応を期待したい。                          | 継続:11 |
| (5)仕事と子育ての両立に向けた支援<国任意記載事項> |                    |   |          |    |   |       |
| 1                           | ワーク・ライフ・バランスの啓発の推進 | ワーク・ライフ・バランスについて考える男女共同参画講演会『子どもシゴト 自分 ~心しなやかに自分らしく~』(講師:佐久間レイ氏)、男女共同参画セミナー『笑って考えよう! 家族のこと、仕事のこと、未来のこと』(講師:瀬地山角氏)を開催し、関心や理解を促進するとともに子育てしやすい社会・職場環境づくりの意識啓発を行いました。   | 人権・市民相談課 | 継続 | ・悩める親のために、少しでも解決につながるよう、環境整備と啓発活動を今後も実施してほしい。         | 継続:11 |
| 2                           | 男女共同参画に関する啓発事業の推進  | 男女共同参画について考える各種講演会を開催し、性別的な役割に偏ることなく、男女がともに家事・育児に協力するよう意識啓発を行いました。また、男女共同参画週間(6/23~29)に合わせ、市民課前に展示パネルを設置したり、図書館において関連図書をPRし、男女共同参画の意識啓発を行いました。さらに、ジェンダーチェックリーフレットを市内の小学4年生に配布して、ジェンダーについて家族で考える機会を提供しました。   | 人権・市民相談課 | 継続 | ・大人への啓発も必要だが、これからは18歳以下の者にも広げることを念頭に行事を組むことが。         | 継続:11 |

|  |                    |  |          |    |   |              |
|--|--------------------|--|----------|----|---|--------------|
|  | 3 改正育児休業法等の意識啓発の推進 | <p>家事・育児の協力を併せ、改正育児休業法等を掲載した男性向け子育てリーフレット「富士見市でパパになる」を母子手帳と一緒に配布しました。</p> <p>広報ふじみ平成27年6月号「男女共同参画ひろば いっぱいっぼ」において、妊娠・出産・育児の協力について掲載しました。</p> <p>市内事業所の規模を勘案すると、事業主等に限定した啓発だけでなく、市民向けの啓発と併せて実施するなど、より実現性のある方策を考える必要があることから、人権・市民相談課が広報ふじみ平成27年8月号で「育児休業給付金」について掲載し、また、男性向け子育てリーフレットの内容を大幅に改定し、育児休業についての記載を加えました。</p> | 人権・市民相談課 | 継続 | <p>・最近イクメンという言葉が聞かれるように、父親の子育てがかなり浸透している。しかし、十分な知識や育児の方向性が分らないと、しつけという名目で幼児虐待に走ってしまう傾向もみられる。父親の育児教育も必要と感じる。</p> <p>・最近イクメンという言葉が聞かれるように、父親の子育てがかなり浸透している。しかし、十分な知識や育児の方向性が分らないと、しつけという名目で幼児虐待に走ってしまう傾向もみられる。父親の育児教育も必要と感じる。</p> <p>・育児休業制度は母性保護や、子どもに肌のぬくもりを感じさせながら母性を与えることにより愛情の育成やすやかな人間形成のためにも必要不可欠なことだと思います。このことは大脳生理学的にも証明された(6ヶ月の期間)と聞いています。100%取得できるように進めるべきだと思います。しかしながら、中小企業では育児休業中の人手不足をその期間だけ採用するというには困難があると思います。そして育児休業復帰後は余剰人員を抱えることになり、経営の圧迫になります。その助成措置を国に対して望みます。また、保育の部分から考えれば0歳児の保育はよほどのことがない限り必要なくなり、1歳児からの保育園にすれば保育士不足もやわらぐのではないかと思います。</p> | 継続:11        |
|  | 4 再雇用の支援促進         | <p>広報において国・県の情報を提供したほか、国(ハローワーク)、近隣自治体及び関係機関との共催により、各種就職面接会等を実施しました。また、平成25年より国と連携して設置したふるさとハローワークにて就労情報の発信と職業(就業)相談の充実を図りました。また、労働法や、多様な働き方のための啓発として、市民向け講座のほか、県(女性キャリアセンター)との共催、市単独によるセミナーを開催しました。</p>   | 産業振興課    | 拡大 | <p>・継続して下さい。</p> <p>・若い人々への就業相談はもとより、より増加する高齢者の就業希望者への対応も、変化、拡大が必要と思われる。</p> <p>・引き続き情報収集を含めお願いします。</p> <p>・時代とともに多様化する働き方に合わせて、色々な場が必要だと思います。</p> <p>・高齢化時代です。年齢が壁にならずに就職できることを望みます。</p> <p>・職業相談等の拡大。</p> <p>・母親世代の再雇用は喫緊の課題である。ぜひ充実をしたい。</p>   | 継続:7<br>拡大:7 |

3 地域や社会が支える子育て支援

(1)子どもが安心して生活するための支援

|                    |  |       |    |  |                         |
|--------------------|--|-------|----|--|-------------------------|
| 1 防犯体制の整備・推進       | <p>保育所では定期的に防犯訓練を実施しており、埼玉県警や警備会社による防犯・安全講習にも職員が参加し、子どもの安全確保に努めています。</p>   | 保育課   | 拡大 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機会を作り注意喚起に努めて下さい。</li> <li>・地域も含めた予防になればよりよいです。</li> <li>・小さい時からの積み重ねが大切。月1回ぐらいのペースでお願いしたいです。</li> <li>・犯罪も色々なものが増えているので、もっと活動を広めてほしい。</li> <li>・子どもたちの安全を心から願っています。</li> <li>・十分に連携はとれていると思いますが、少しでもあやしい人がいればスムーズに連絡がとれるように特に近隣の方に呼びかける。どこに連絡するのかわからないと思うので、「ここに連絡を…」というかたちで。</li> <li>・継続の訓練と想定外の危機管理態勢の充実。</li> <li>・保護者の意識向上を図れる研修会を。</li> </ul> | 継続: 4<br>拡大: 10         |
|                    | <p>児童生徒の安全を確保するため、定期的な防犯訓練の実施のほか、各学校におけるPTAや地域住民(スクールガード)と連携したパトロール活動や、スクールガードリーダーによる巡回指導などを継続して行いました。また、スクールガード等研修会を年3回実施し、児童生徒の安全・安心な登下校を実現しました。</p> | 学校教育課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじみ野学区においては、町が新しいため、子ども会や育成会などがなく、地域の見守りが他の地域よりとても少ない。それぞれの地域を、市として把握して働きかけをしてほしい。</li> <li>・学校で地域とパトロール隊の話し合いの機会を設け、どう実施してもらおうか検討する必要がある。パトロール隊にまかせればなしの傾向がみられる。</li> </ul>   | 継続: 8<br>拡大: 2<br>改善: 1 |
|                    | <p>市内には55町会すべてにおいて、自主防犯パトロール隊が組織されており、児童の下校時間のパトロール実施により、地域による子ども見守り体制を構築しています。</p>  | 安心安全課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの場所に防犯カメラの設置を願います。</li> <li>・これからも協力支援の要請を。</li> </ul>   | 継続: 9<br>拡大: 1<br>改善: 1 |
| 2 防犯を基本としたまちづくりの推進 | <p>市民協働による継続的な地域防犯パトロールの実施を図るため、引き続き活動支援・推進をしました。また、青色防犯パトロールカーの増台により青色防犯パトロール活動体制が強化されました。</p>  | 安心安全課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの場所に防犯カメラの設置を願います。</li> <li>・黄色、青色パトの増設を。地域をまんべんなく網羅できるように。</li> </ul>   | 継続: 9<br>拡大: 1<br>改善: 1 |
| 3 地域活動を担う次世代の育成    | <p>富士見市における自主防犯組織率は年々上昇しており、自主防災会、学校と連携した防災訓練を実施しています。平成27年度実施の富士見市総合防災訓練において各小中学校、保育所、幼稚園にチラシを配布し、意識啓発に努めました。</p>                                     | 安心安全課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害予測不能の自然災害に対して、どう対応するか市民意識の向上を図ることが喫緊の課題である。啓発活動と市民参加の研修、実践練習。</li> </ul>   | 継続: 10<br>拡大: 1         |

|   |                           |   |        |    |  |                         |
|---|---------------------------|---|--------|----|--|-------------------------|
| 4 | 通学路の安全確保                  | 平成27年度は住民の要望を受けて、水谷小において通学路を一部変更するなどし、子どもの安全な登下校を実現できるよう取り組みました。また、通学路に関する保護者や地域住民からの要望に対しては、関係課と連携し改善を図りました。 | 学校教育課  | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月よりつるせ台学区内に交通指導員が1名配置され、規定の30名になってしまいます。つるせ台学区の区画整備、南畑学区の住宅増加など、今後の市の状況を考え定員を増やす、または見直しを計り、必要な時にすぐ配置できるような体制をとってほしい。</li> <li>・地域の道路事情もあるが、時間帯による進入禁止箇所の増設。</li> </ul> | 継続: 8<br>拡大: 2<br>改善: 1 |
| 5 | 交通安全教育の推進                 | 各学校で交通安全教室を実施するなど、交通事故防止のために、警察や関係課と連携し、効果的な交通安全教育を実施しました。  | 学校教育課  | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施していることは理解しているが、道路交通法の改正されている部分が浸透されるよう教員の意識向上を。特に自転車利用の注意点を各学校で指導できるように。</li> </ul>  | 継続: 10<br>拡大: 1         |
| 6 | 子どもが避難できる家(110番三角旗)の設置の推進 | PTAや市民の協力により事業の認知度も高まり、市内の各所で三角旗を掲げている家、商店など、少しずつ拡大しています。今後も青少年育成市民会議環境浄化部会の活動を支援していきます。                      | 子育て支援課 | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国や警視庁が推進している「子ども110番の家」との違いが(同じ意味を持つのか)明確でない。もう少しマニュアルへのわかりやすい記載があると良い。(市のHPにも大きく掲載してほしい。)</li> <li>・今後も協力要請を。</li> </ul>  | 継続: 9<br>拡大: 1<br>改善: 1 |
| 7 | 小中学区の安全マップの作成の推進          | 各学校が、道路環境の変化などを反映するとともに、家庭・地域の協力を得ながら、通学路や交通の危険な場所などを記入した「安全マップ」の見直しに取り組みました。                                 | 学校教育課  | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の道路状況を勘察して、家庭と児童で地域にあった安全マップ作成をすることが必要。自分の身は自分で守る意識を醸成させる。</li> </ul>   | 継続: 10<br>拡大: 1         |
| 8 | ベビーカー等が安心して通れるまちづくりの推進    | 市道第1195号線(大字水子地内、水谷東2丁目西側)の歩道整備工事(L=186m)は発注済みで、平成28年度への繰越工事として実施しています。                                       | 道路治水課  | 継続 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路整備する際、お年寄り、障がい者の安全確保が備えられた整備を。</li> </ul>  | 継続: 10<br>拡大: 1         |

(2)子育てに関する情報提供

|                            |  |                 |           |  |              |
|----------------------------|--|-----------------|-----------|--|--------------|
| <p>1 子育て・家庭教育学習支援の推進</p>   | <p>交流センターでは、ふじみ野交流センターにおいて、ふじみ野保育園子育て支援センター「にこにこひろば」の充実のため、プレイルームを常設会場として施設提供しています。また、支援センターと共催で「骨盤&amp;ストレッチ体操」を開催したほか、図書館分館によるお話し会や大学生のサークルによるパネルシアターを開催しました。さらに、保育付講座として「初めてのキャラクター弁当」を実施し、図書館分館や子育て支援センターと連携した事業を多く実施しました。鶴瀬西交流センターでは、「紙芝居講座」受講者有志による紙芝居ボランティア活動により、高齢者施設、幼稚園、保育園での定期上演、西交流センター緑日や地域イベントに参加してきました。平成27年度は「紙芝居講座」の開催が中止となりましたが、ボランティア定例会で各活動の交流や実技練習を行い、地域でのボランティア活動も定着してきました。また、「フリースペース西っ子」では、乳幼児を持つ親の子育て情報交換や、育児相談の場として月1回開催し、民生児童委員が見守り・相談相手となるほか、保健師・栄養士・歯科衛生士・保育士が毎月交互に入り個別相談や時節のポイントアドバイスをしています。スタッフの皆さんにも丁寧に対応していただき、子育てに不安を抱える親の相談場所および親同士の交流の場となりました。</p> | <p>交流センター</p>   | <p>継続</p> | <p>・素晴らしい取組を行っている。さらに、利用者目線に立った活動を行うために、また、内容の充実を図る上からアンケート等の実施をもってニーズに応えることも。</p> | <p>継続:11</p> |
|                            | <p>公民館では、鶴瀬公民館において、乳幼児の保護者を対象に、子育てサロンを開催しています。また、「おかあさんのステップアップ講座」、幼児から小学生の保護者を対象に、子育てコーチング講座「ママ力アップ」、小学生の保護者を対象に「家族が育つコミュニケーション」を開催し、南畑公民館では、子育てサロン「ちびっこおおむし」を開催しました。水谷公民館では、新規事業として「親の学習講座」を青少年育成市民会議水谷支部との共催により開催し、水谷東公民館では、子育てサロンを月1回、家庭教育の支援については、「子育て応援の勉強室」を年3回開催してきました。いずれも、学びの場を子育て中の親子同士の出会いの場として提供することにより、保護者の情報交換や地域デビューのきっかけづくりにもなっています。また、参加者からのアンケートなどから、ニーズをとらえ、保育付きで開催することで参加しやすいと好評です。</p>   | <p>公民館</p>      | <p>継続</p> | <p>・素晴らしい取組を行っている。さらに、利用者目線に立った活動を行うために、また、内容の充実を図る上からアンケート等の実施をもってニーズに応えることも。</p> | <p>継続:11</p> |
| <p>2 地域子育てサークルの育成事業の推進</p> | <p>子育てサークルインフォメーションの発行をはじめ、体験交流会、情報交換会、子育てまちゆりなど、様々な機会を通じて情報発信と交流の機会を設け、出張・支援の要請等に対しては個別に支援活動を行っています。</p>  | <p>保育課</p>      | <p>継続</p> | <p>・さらなる支援を。</p>   | <p>継続:11</p> |
| <p>3 急病・救急医療の情報提供の充実</p>   | <p>今まで同様に地域の医療機関をホームページや市民便利帳に、休日・夜間・小児時間外診療所の情報をホームページ及び毎月の市広報に掲載して情報提供をしています。</p>  | <p>健康増進センター</p> | <p>継続</p> | <p>・今まで同様に展開を。</p>   | <p>継続:11</p> |

|                       |                              |   |          |    |  |       |
|-----------------------|------------------------------|---|----------|----|--|-------|
| 4                     | 子育てに関する広報活動事業の充実             | 担当課と連携を図り、広報紙、市民便利帳などに、子育てに関するさまざまな情報をわかりやすく掲載しました。特に平成27年広報ふじみ11月号において、子育て支援センターについての特集記事を掲載しました。また、ホームページや担当課が開設するSNSにおいて、情報発信などの支援を行いました。  | 秘書広報課    | 継続 | ・単発的な広報でなく、シリーズ形式にしたりして広く知らしめる。                              | 継続:11 |
| 5                     | 子育て情報誌の発行                    | 子育てガイドブックは平成27年度に全面改訂し、カラーで見やすく、持ち運びに便利なサイズの「富士見市DEスマイル」として発行しました。また、キッズ通信は引き続き年12回発行するとともに、市ホームページにも掲載し、支援センターの行事等の情報提供をしています。   | 保育課      | 継続 | ・年々向上している。   | 継続:11 |
| 6                     | 外国籍市民への情報提供の充実               | 市ホームページに、外国籍市民のための生活ガイド6カ国語版を掲載し、日常生活についての情報提供を行っています。また、外国籍市民のための市民生活相談窓口を開設し、安心して暮らせるための支援を図っています。  | 人権・市民相談課 | 継続 | ・ますます増加するであろう外国籍市民が市に溶け込める支援体制の充実を。日本語指導等の充実。                | 継続:11 |
| <b>(3)子どもの健全育成の充実</b> |                              |   |          |    |  |       |
| 1                     | 子ども・青少年活動支援者の育成の推進           | 水谷公民館・水谷青空学校では、事業で作成した作品(ちぎり絵)を、東日本大震災・富士見市応援プログラム(東松島夏まつり)で活用するため、高校生のスタッフ(指導員)4名が現地に行き、学習と交流の機会としました。水谷東公民館では、豆の木学校を水谷東小学校体育館等を利用して、小学校2年から6年生の異年齢による集団生活を通し、夏休みの生活体験学習として実施しています。この体験機会を通し、青少年ボランティアスタッフの育成とその組織化も併せて推進してきました。鶴瀬公民館が協働で進める「子どもフェスティバル」においても、中学生・高校生によるボランティア参加をすすめ、青少年活動支援者の育成に関わる機会を増やしてきました。 | 公民館      | 継続 | ・公民館活動での展開としてはよい取組を行っている。市としては、小中高と発達段階に応じた取り組みの機会を設定できるとよい。 | 継続:11 |
| 2                     | 青少年相談員活動事業の推進                | 市内で行える事業を拡大し、活動内容の充実を図っています。また、他の青少年関係団体への事業協力や他市町村の青少年相談員との協力も積極的に実施しています。今後も、事務局として活動の支援を行っていきます。   | 子育て支援課   | 継続 | ・青少年相談員を増やす体制を確立できるように。                                      | 継続:11 |
| 3                     | 地域における子ども・青少年活動支援者のネットワークの促進 | 公民館では、鶴瀬公民館においては「子育てサロンサポーター学習会」を継続開催し、水谷公民館では、「子育てサロンの保育スタッフの学習会・交流会」を開催するなど、情報交換や学習の機会を設け、資質の向上とサポーター同士の交流、新サポーターの育成により、子育て当事者の意見、気持ちを大切にしたい運営につながってきています。  | 公民館      | 継続 | ・啓発活動として活動内容、成果を広く広報することで活性化するもの思う。                          | 継続:11 |

|   |               |   |        |    |   |       |
|---|---------------|---|--------|----|---|-------|
| 4 | 子ども会育成会への支援   | 加盟する単位子ども会育成会の減少により、子ども会育成会連合会の活動は休止となりました。しかし、各単位育成会は、町会等と協力しながら地域の子どもの健やかな成長のための活動を継続しており、引き続き活動を支援していきます。  | 子育て支援課 | 継続 | ・歯止めがかからない現状打破のため何に力点をおくかの絞って検討する必要がある。 | 継続:11 |
| 5 | 青少年育成推進員への支援  | 「家庭の日」ポスターコンクールの応募作品数が増加しています。また、ららぽーと富士見のオープンに伴って、いじめ・非行防止パトロールを実施しました。認知度が低いため、様々な機会を利用して活動を周知していきます。       | 子育て支援課 | 継続 | ・さまざまな機会とあるが、市民に周知されているか見えない。           | 継続:11 |
| 6 | 青少年育成市民会議への支援 | 青少年健全育成推進のため、4支部3部会にて各種事業を実施しました。県からの要請もあり、「親の学習講座」を公民館と共催で行うなど、活動内容の充実を図っています。さらなる健全育成推進のため、事務局としての支援を継続します。 | 子育て支援課 | 継続 | ・親の参加意識を高めるための啓発と工夫を。参加したくなる内容の工夫を。     | 継続:11 |